

ら い ふ

2019.1 No.80



「タンチョウ鶴(釧路)」白石 セツ子

- 年頭挨拶
- わかりやすい医学教室(神経内科)
「歩き方いろいろ～神経内科医の立場から～」
- ホスピタメール

—— 医療法人 王子総合病院理念 ——

「私たちは、みなさまの健康、医療、
介護を信頼と愛情で支えます。」

王子総合病院理念

みなさまの人格を尊重し、安全で最善の
医療を提供します。

基本方針

1. みなさまの意思（自己決定権）を尊重した、安全で信頼される医療の提供に努めます。
2. 地域基幹病院として、職員の研鑽に努め、人間愛に満ちた高度な総合的医療の提供に努めます。
3. 地域住民や医療機関との連携を緊密にし、地域の医療、福祉、保健の向上に努めます。

ホームページ

<http://www.ojihosp.or.jp/>



医療
法人

王子総合病院

謹賀新年

年
頭
挨拶



院長・理事長 大岩 均

新年あけましておめでとうございます。皆様にとりましては穏やかな新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。本年も皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。

今年が平成最後の新年となります。4月30日の天皇陛下の退位に伴い、5月1日に皇太子さまが新天皇として即位され元号が新しくなります。新元号の発表は4月になるとの報道がありますが、どんな元号になるか今

から楽しみです。この平成の時代ですが、大きくまとめると「経済の低迷」と地震などの「自然災害」が多かった30年間だったように思います。平成に入り1〜2年でバブル経済が崩壊して100兆円規模の不良債権が発生し、経済の長期低迷が続き、いわゆる「失われた20年」と呼ばれる時代となりました。バブル崩壊の影響を受け、平成9年には北海道拓殖銀行の破綻、山一証券の自主廃業という金融機関

の崩壊も社会を混乱に陥れました。低迷した状態から抜け切れない中、平成20年にはリーマンショックにより再び大きなダメージを受け、深刻なデフレ社会に突入します。安倍首相がデフレ脱却のため、経済政策として「アベノミクス」を打ち出しましたが、未だにデフレ状態から脱却できていないとは思われません。政府は経済状況が好転してきていると発表していますが、一般市民の体感としてはいかがでしょうか。

また、自然災害については、平成5年の釧路沖地震、北海道南西沖地震、平成7年の阪神淡路大震災、平成16年の新潟中越地震、平成23年の東日本大震災、平成28年の熊本地震、そして昨年9月6日の胆振東部地震と大地震が日本各地で発生し、地震の起きない地域はないと思われた方も多いのではないのでしょうか。今後、南海トラフ地震、東海地震など都市部での地震が予想され被害の程度がシミュレーションされている

ますが、いつどこにどの程度の規模の地震が起きるかは現在のIT技術をもってしても予測が出来ないようです。昔から怖いものの代名詞として「地震、雷、火事、親父」ということわざがあります。最初の3つは予測が出来ないという点で怖いのは現在でも同じだと思います。では、「親父」についてはどうなんだということになります。今回触れないことに致します。胆振東部地震では北海道全体が停電となる「ブラックアウト」を経験しました。病院は外来の休診、手術の中止など多くの制限を余儀なくされましたが、非常用自家発電で必要最低限の電源を確保し、医療を継続することが出来ました。市民の皆さんも、電気が復旧するまでは大変なご苦労があつたでしょうし、復電して改めて電気のありがたさをつくづく実感したのではないのでしょうか。北電の危機管理能力については色々と批判もありますが、2、3日ではほぼ100%復旧させた

北電職員の皆さんの努力には感謝したいと思います。当院は地域災害拠点病院に指定されていることから、例年苫小牧市消防、近隣の町内会の皆さんなどに協力をいただいて災害訓練を行って参りましたが、その訓練の成果は当日も生かすことが出来たと思つています。日頃の備えが大事だということがよくわかりましたが、実際に今回の地震、停電を経験し多くの課題・問題点が見つかりいい教訓になったと考えています。今後、この課題・問題点を少しでも減らすように準備を進めているところです。そして今回の地震で被害のひどかった胆振3町の1日も早い復旧、復興をお祈りしたいと思つています。地震以外にも豪雨や台風による大規模な災害が毎年日本のどこかで起きています。局地的に短時間に集中して大量の雨が降るため、河川の氾濫や土砂崩れが発生し多くの犠牲者が出ています。気象庁は数十年に一度しかないような豪雨を予測して大雨特別警報

を出し注意を喚起していますが、地域の住民としてはどんな大雨が降るのか想像出来ないため、避難のタイミングが遅れてしまうことも被害拡大の原因かもしれません。記憶に新しい、昨年の西日本豪雨は平成最悪の被害となり、今後の防災のあり方に課題を残しました。災害ではありませんが、平成の最悪の事件として記憶に残るのは、平成7年のオウム真理教による「地下鉄サリン事件」です。この事件も全く想像できない出来事で、日本人だけでなく世界を恐怖に陥れました。低迷経済と災害など悪いことはかりの平成のようでしたが、嬉しい出来事もたくさんありました。平成の30年間で一番感激した出来事は、地元の駒大苫小牧高校が3年続けて夏の甲子園で決勝戦に進み、平成16年、17年と優勝し平成18年も決勝に進みましたが、決勝戦再試合で早稲田実業に敗れ残念ながら準優勝になったことです。白河の関を超えたことのない真紅

の大優勝旗が、いきなり津軽海峡を越えて北海道に来ることなど全く想像も出来ないことで、奇跡としか思えませんでした。初優勝した年の決勝戦をテレビで見ましたが、勝った瞬間鳥肌が立つほど感動したことを今でも思い出します。三連覇は出来ませんでした。見事な2・9連覇だったと思つています。

さて、当院は平成22年に開院100周年という大きな節目の年を迎え、次の100年に向けて地域医療に貢献し続けることを誓いました。現在、超高齢社会を迎え2025年問題という大きな課題を抱えている日本ですが、新年号となり少しでも良い方向に向かう年になることを期待したいと思つています。当院も新たな気持ちで地域の皆様から信頼される病院を目指し研鑽に励んでいきたいと思つています。今年も王子総合病院をどうぞ宜しくお願いいたします。

「歩き方いろいろ」

～神経内科医の立場から～

特集

神経内科 上杉 春雄



上杉医師

歩くことは、我々動物にとってもっとも基本的かつ重要な能力の一つです。それだけでなく、歩くことで体調の維持や、脳の活性化からのボケ防止など、いいことがいっぱいあります。歩行障害による、生活上の制限や困難は計り知れません。

今回は、歩行障害の原因となるようないくつかの病気を見ていきたいと思います。

1 脳血管障害

「ある日突然」「前の日まで大丈夫だったのに、翌朝目が覚めたら」など、急に出現する歩行障害は要注意で、急いで医療機関を受診する必要があります。急な症状は、血管が詰まったか、破れたか、いずれにしてもまず血管・血流の

異常を考えます。その時「左右どちらか片側の手足」の力が入らない場合を片麻痺と言ひ、脳梗塞・脳出血など脳の血管障害の可能性が高いと考えます。「両足」の力が入らない場合を対麻痺と言ひ、比較的珍しいことですが脊髄での血管障害の可能性があります。片足だけの麻痺が急に起きることもあり、その場合は脳や脊髄の血管障害の可能性とともに、足に血液を送る血管が詰まるなどの可能性も考えなくてははいけません。

2 炎症性疾患

数日から1〜2週間くらいかけて進んで来るようなものは、炎症性の病気を考えます。炎症は本来体に入ってきた病原体を攻撃する免疫反応の結果起きるものですが、中には自分の神経を攻撃してしまう自己免疫性の病気で起こることもあります。神経系炎症性疾患の多くは神経内科の病気に属しており、脳・脊髄といっ

た中枢神経の病気としては多発性硬化症、視神経脊髄炎などさまざまなものがあります。力が入らないだけでなく、ふらつく、口がもつれる、しびれるなどで始まることも少なくありません。

末梢神経障害であればギラン・バレー症候群という病気が有名です。風邪にかかったりした後、1〜2週間後から力が入らなくなるというのが典型的な経過です。ひどい場合は呼吸もできなくなりますが、数か月人工呼吸器がつくような重症例でも、適切な対応を取っていれば歩いて自宅に戻れるチャンスがある病気ですので、早めに診断・治療を受けるべきです。

3 悪性疾患／代謝性疾患

数か月の単位で出てくるものであれば、やはり脳や脊髄の癌を疑わないといけません。そのほか、栄養障害や薬の副作用など、代謝性の異常もこのくらいの経過で症状が進んでくるものがあります。

す。

4 変性疾患

数か月から年単位となりますと、変性疾患という神経が少しずつ死んでいくような病気を考えます。多くは難病であり、やはり神経内科で診る疾患です。

特に患者さんが多いパーキンソン病では、少し背中が丸くなつて前かがみとなり、無表情でよちよち歩きになります。体を円滑に動かすシステムの異常と考えられており、他に何もしないのに手が震えている、動こうとしてもなかなかすぐに体がうごかない、声小さくなるなどの症状と合わせてパーキンソン症状と言います。

パーキンソン症状は多発脳梗塞など他のいろいろな病気でも見られますが、パーキンソン病だけが症状を改善させる薬がありません。ですから、パーキンソン症状かなと思つたら、神経内科専門医を受診し、パーキンソン病かどうか適切な診断を受けて治療される

ことを強くお勧めいたします。当院では丁寧な診察と最先端の検査を併せて診断を行つております。

そのほか、ふらつきで歩けなくなつてしまう脊髄小脳変性症も、神経内科で診る神経変性疾患です。このグループには家族発症するものが少なくありませんので、親戚に歩行障害の方がいらつしゃるような場合、気になることがあれば一度ご相談ください。

5 脊椎疾患

腰のヘルニアや腰部脊柱管狭窄なども歩行障害の原因となります。多くはしびれや痛みなどの感覚障害を伴いますが、中には筋力低下ばかりが目立つ場合もあります。手にも異常があれば、頸椎やその中を通る頸髄の異常も考えます。これらの症状上のポイントは「動けば動くほど悪くなる」ということでしょう。そういう変性が続く歩行障害は、脳梗塞や変性疾患などではあまり見ませ

ん。手術が必要であれば整形外科や脳神経外科で対応されることになると思います。

6 筋疾患

当然ですが、筋肉の病気も歩行障害の原因となります。しびれもなく、首回りや肩・太ももといった手足の根元の力が入りにくいなどという場合、筋肉の病気を考えます。

数日〜数週間で進んでくる場合は筋炎が考えられますが、多くは治療可能ですし、中には癌の合併症として出てきているものもありますので、直ちに全身チェックも含めた診察・検査が必要です。年単位で進むものとしては、筋ジストロフィーがあります。残念ながら現在は対症療法しかありませんが、やはりお付き合いの長くなる病気ですので、諸事よく専門医と相談していかれることをお勧めします。

神経内科で診る歩行障害の原因疾患は、まだまだ他にもあり

ますし、神経疾患以外にも、例えば耳の問題で平衡障害が起きたときのめまいも、それから心不全や呼吸不全で体に必要な酸素が回らない時も、また、関節が痛くて力が入らないなどという場合も、結果的に歩けないという症状につながります。

我々は、「歩けない」という訴えに対して、さまざまな原因を区別し、検査で裏付けをして改善への道筋を立てる努力をしております。そしてみなさまが健康な歩行を維持され、健康な生活を続けられますよう、応援してまいります。と思います。

お知らせ

『らいふ』に掲載されたわかりやすい医学教室は、王子総合病院のホームページで見ることができます。

「がん相談支援センター」 「がん看護相談」をご活用ください

当院はがん拠点病院として、がんに関する情報提供、相談を行っています。
センターでは、がん医療に詳しい認定看護師や生活全般の相談ができる
ソーシャルワーカーが相談員として対応しています。相談方法は面接、電話を
問いません。

患者さまやご家族のほか、地域の方々はどなたでも無料でご相談できます
ので、ぜひご利用ください。

がん相談支援センター(月～金)

相談時間▷8:30～16:50

電話:0144-32-8111
(内線661・662)

がん看護相談(月～金)

エントランスホール6番窓口

相談時間▷10:00～11:30
13:30～14:30

がん患者交流サロン

「いずみ会」のお知らせ

『がん患者交流サロンいずみ会』はがん患者さんとご家族の集う場所です。

- 対話を通し、不安や悩みを緩和する場所
- 患者・ご家族同士が、親睦を図る場所
- がん医療に関する情報交換が出来る場所

がん医療に対する情報交換や、同じ境遇の方々との
対話を通し、よりよく過ごすきっかけを見つけませんか。

開催日	ミニ講座と交流会を 組み合わせて開催
1月 8日(火)	気になる医療費・生活を支える制度
2月 12日(火)	がん治療と緩和ケア
3月 12日(火)	病気を知ろう! ～胃がんについて～
4月 9日(火)	笑いのヨガ ～笑いで免疫力を 高めよう!～

時間▷13:30～15:00

★13:30～14:00 ミニレクチャー
★14:00～15:00 おしゃべり会

場所▷王子総合病院
がん相談支援センター

参加費▷無料

※直接会場にお越しください。

問い合わせは

電話**0144-32-8111**(内線661・662)

がん相談支援センター(担当:深田、東倉)

診療科外来受診受付時間 (2019年1月現在)

※新患受付は各科 <午前>8:30~11:00 <午後>13:00~15:00

※再来機受付時間 <午前>7:00~11:30 <午後>12:15~15:00

※再診の受付時間は各科毎に異なりますのでご注意ください。

診療科	午 前	午 後
内 科	休 診	休 診
循環器内科	月~金 ※再診は11:30までの受付	水
消化器内科	月~金 ※再診は11:30までの受付	なし
呼吸器内科	月~金 ※再診は11:30までの受付	月~金 (火曜・水曜日は予約患者のみ)
血液腫瘍内科	月~金	月~木
外 科	月、水、金 ※再診は11:30までの受付 火、木 ※再診は11:00までの受付	月、水、金
心臓血管外科	月、水、金 ※再診は11:30までの受付	金(静脈瘤外来のみ)
脳神経外科	月~金 ※再診は11:00までの受付	月、火、木、金(新患・予約患者のみ) 水(新患のみ)
神経内科	月、水、金 (医療機関からの紹介予約のみ)	なし
整形外科	月~金 ※再診は11:00までの受付	月、木(スポーツ外来のみ)
小 児 科	月~金 ※再診は11:30までの受付	月、金 (火~木は一般外来休診です)
耳鼻咽喉科	月~金 ※再診は11:00までの受付	金(再来患者のみです。新患、紹介患者の受付はできません)
泌尿器科	月~金 ※再診は11:30までの受付 ※新患は紹介状が必要です	火、木(予約患者のみ)
産 婦 人 科	月~金 ※再診は11:30までの受付 ※金曜日 産科受付 8:30~10:00	木 1カ月検診(産後検診)のみ
眼 科	月~金 ※再診は11:00までの受付	水(予約患者のみ)
皮 膚 科	月、水、金 ※再診は11:00までの受付 ※新患は紹介状が必要です	なし
麻 酔 科	月、水、金 ※再診は11:00までの受付	なし
放射線治療科	月~金 ※再診は11:30までの受付	月~金(予約患者のみ)
歯科・歯科口腔外科	月~金(予約患者のみ) ※再診は11:30までの受付	月~金(予約患者のみ)

中学生職業体験学習

こんにちは、看護部です。

10月中旬から下旬にかけて、苫小牧市内5校の中学2年生が職業体験にきてくれました。

職業体験の目的は、希望する職場を訪問し、その仕事の一部を体験することにより正しい職業観を身に付けることにあります。今回参加した学生も将来、医療関係の仕事希望しており、皆さん真剣でした。

オリエンテーションでは、当院の特徴や施設について説明を行い、挨拶についての大切さもお話しました。その後の病院内見学では、大きな声で挨拶を行っていました。

座学では、感染管理認定看護師より手洗いについて学びました。実際に手洗いを行い、各自の洗い残しを確認し手洗いの大切さを実感していました。次に災害看護についての



講義・実技では、胆振東部地震も体験したこともあり、真剣に講義を聞いていました。その後BLSインストラクターから、AED

の使用方法や心臓マッサージについての手技を学び、インストラクターから「上手だよ」とお褒めの言葉をもらい一生懸命行っていました。

今回、職業体験学習で一番楽しみにしていた部署訪問では、短い時間ではありましたが、患者さんとふれあい貴重な体験をしました。部署体験を終えた学生からは、「楽しかった」と笑顔で話され中学生の目からも現場の職員は、かっこよかったようです。

将来、この中学生が看護学生として、また職員として戻ってくる日を楽しみにしています。今後も地域の皆さんのお役にたてるよう頑張っていきたいと思います。

今回、快くご協力くださった患者さまには心より感謝申し上げます。

予防健診のお知らせ

●健診日：月曜から金曜日

●時 間：午前8時～
12時頃まで

1. 一般健診 22,831円
2. 日帰り人間ドック 30,240円
3. 追加項目
 - ①乳がん検診
(2方向 5,657円・1方向 4,629円)
 - ②子宮がん検診 5,997円
 - ③PET-CT検診 94,629円
 - ④その他
4. その他

お気軽に
お問い合わせ下さい

申込み・問合わせ先

健診センター：
☎0144-32-8111(代)
内線 295・296

表紙写真の募集

条件

- 1人何点でも結構です。
- 風景写真(人物が写っていないもの)
- カラー写真
- 原則として応募写真は返却いたしません。
(返却ご希望の方はお申出下さい。)

応募方法

- 写真の裏にタイトル、住所、氏名、電話番号を記入願います。
- 提出先は「らいふ」事務局まで。
- 採用の方には「らいふ」郵送にて発表します。
お写真下にお名前を掲載させて頂き、粗品を進呈いたします。

糖尿病教室のお知らせ

下記の日程で開催します。
どなたでも参加できます。

参加費
無 料

お気軽にご参加ください

○開催日：2019年 1月17日(木)
2月21日(木)
3月14日(木)
4月18日(木)

○時 間：午前10時30分～
○場 所：王子総合病院 講堂(3階)
○講 師：医師、理学療法士、薬剤師
管理栄養士、看護師
歯科衛生士、臨床検査技師

※直接会場において下さい。
※講師の都合により開催中止の場合もありますので
電話にてご確認ください。

問合わせ先

療養支援室：☎0144-32-8111(代)内線660

「らいふ」の掲載内容についてご意見、ご要望がございましたら遠慮なく事務局までお申しつけ下さい。